

課題番号 : 25指5
研究課題名 : NCGMの海外連携施設の活用と研究能力強化に関する研究
主任研究者名 : 三好知明
分担研究者名 : 慶長直人、小原博、仲佐保

キーワード : 国際医療協力、ネットワーク、海外拠点、e-learning、研究能力

研究成果 : 国別の成果は以下の通りである。

1)ベトナム:ベトナム・ハノイ市バックマイ病院において11月25日から27日までセミナーを実施した。セミナーの内容は基礎統計学、継時データ解析、系統的レビュー、ROC解析などである。e-learningシステムのid/passwordを関係者に配布し、コンテンツの精緻化を図った。受講生には一部、実地モデル研究として慢性気道感染症に関する臨床疫学研究に参加してもらい、データ収集、データマネージメントのスキルを向上させる。

2)ラオス:10月15-16日に第7回国家保健研究フォーラム(NHRF)を実施した。参加者数は134名で、日本からも30名以上が参加した。今年度よりラオス保健研究日本コンソーシアム(JCHR-Lao)を通じた協力を明確とし、メンバーの研究申請手続きの簡略化などを図るためNHRFの開催事務局であるNIOPHとの間で、連携協定(MOU)を締結した。

研究体制整備ではいろいろ存在する日本とラオスの共同研究を調整し、一括して研究プロポーザルを作成しNIOPHに申請する体制を構築した。また、研究協定・研究倫理審査を確実に実施する体制作りを支援している。

10月18日にサバナケット県セポンに、村落保健員トレーニングセンターが開設された。村落レベル、HC、District、Province、Central levelを巻き込み、そこで研究能力強化を図るが、Eco-health EducationをSVKで展開するための、カリキュラムを作成した。栄養に関する調査も準備中である。

本センターを開設に伴い、現時点で必要なトレーニングは何かブレインストーミングを行い(Sengchan, Tiengkham, 野田、西本、小林)トレーニングマネージメント研修を導入することが決定した。これを受けてサバナケット県側からの要請により、セポン郡以外2郡の郡保健局のマネージメント研修をおこなっていくことになり、第1回を10月19日に開催した。

3)カンボジア・ミャンマー等:カンボジアにおいては、8月1日に、昨年締結した合同事業協定(MOU)に基づき、カンボジア国立母子保健センター臨床能力改善ミニプロジェクトの内容に関しての合意書を署名、新生児に関連した人材育成事業が開始された。今後、これらの活動を評価予定である。

ミャンマーにおいては、これまでのモデル事業として、公衆衛生を中心とした研究方法に関するモデルミニ研究を実施、毎年の合同会議にて、評価を実施。これらのそれぞれの論文もしくは報告書を評価、研究の改善をしている。また、保健省保健局長と国立国際医療研究センターとの間の協定を結ぶことに関しての合意がされた。

4)ネパール:拠点管理能力強化では、2013年1月にNCGMとトリブバン大学医学部(IOM)との間で研究協力とそれに関連した人材育成に関する協定(MOU)が締結され、IOMがNCGMのネパール拠点として発足した。研究班発足後、IOM内に拠点オフィスが設置され、必要機材(机、椅子、コンピュータ各1)を揃え、補助員を1名雇用し、オリエンテーションを実施した。2013年5月より拠点オフィスとしての機能を開始し、ODAによる協力の概要と現況に関する調査や人材育成強化として、カウンターパート部署である研究研修部、内科、公衆衛生学教室と協議の後、本研究班の計画に基づく活動を開始した。内科、公衆衛生学教室との協力は研究能力強化を主眼としている。

-研究研修部:JICAプロジェクトのインパクト、現在の問題点について概略を聴取した。研究手法とくに、疫学手法や画像診断手法が弱いことが指摘された。

-公衆衛生学:同教室と共同で実施した研究「マラリア対策における蚊帳配分のEquityに関する研究」について、疫学的観点からの解析、Discussionを行い、学会発表用の要旨を作成した。

-内科:呼吸器内科で開始予定の研究「トリブバン大学医学部教育病院における間質性肺炎症例の検討(IOMの予算による)」について、同科スタッフに対し研究計画作成の補助や画像診断(胸部X線、CT)読影の助言等を開始した。

Subject No. : 25-Shitei-5

Title : Research on the utilization of the NCGM collaboration institutions and strengthening their research capacity

Researchers : Chief Researcher; Chiaki MIYOSHI, Collaborating Researchers; Naoto KEICHO, Tamotsu NAKASA, Hiroshi OHARA

Key words : international collaboration, network, collaborating institution, e-learning, research capacity

Abstract : Results of the each country are as follows;

1) Vietnam

We held a seminar on basic statistics, systematic review and ROC curve, which are often used in clinical research, at the Bach Mai Hospital in Hanoi on November 25-27. Besides, we developed e-learning system based on the summary of contents in the past seminars with adding comments and quiz, by which the users could make self-evaluation. The e-learning system was distributed among the lecturers to check the contents. User ID and passwords were created for 10 local concerned staffs. Additionally, we undertook a model research with the theme of “Research on sinobronchial syndrome in Vietnam”.

2) Lao PDR

The 7th National Health Research Forum (NHRF) was held on October 15-16, with the aim to strengthen research system throughout the country by establishing a national hub. Number of participants was 134, including more than 30 Japanese ones, as well as those from other major donor agencies who support health research in Laos. Most notably, the Japanese Consortium for Lao Health Research (JCHR) mediated between the National Institute of Public Health (NIOPH) and University of Health Sciences of Lao PDR to organize the 7th NHRF jointly. It is expected that the country’s ownership of research has been enhanced under the collaboration of these two institutions practically undertaking the research in the field of health and medicine.

In the collaborative research undertaken by the Japanese researchers with the health-care staff in Savannakhet Province, the training center for village health volunteers opened in Xepon district in October, as a hub for remote health-care research. Firstly, “management of training” was introduced using the tools which the NCGM had developed in Vietnam. Preliminary training sessions and need assessments on “management of training “ were conducted in October, where we found quite high needs among provincial and district health-care staff. In addition, following the Training of Trainer (TOT) at the NIOPH and development of training materials in local language, the 1st training course was organized in Xepon district in March 2014.

3) Cambodia, Myanmar

In Myanmar, research protocol meetings were held twice a year, where research protocols of four researches (MCH 2, NCDs 1, Awareness research on Total Quality Management (TQM) 1) were evaluated by the governmental officers of the Ministry of Health. Besides, the environment to promote health research has been improved, since the ethical committee was established in the Department of Health under the Ministry of Health.

In Cambodia, based on the MOU signed last year, the Project for Clinical Capacity Development was launched at the National Maternal and Child Health Center. As the activities for human resource development in the field of neonatal care, the supports for guidance on respiratory management, development of manual for neonatal care and joint conference were provided, by dispatching resident physicians continuously from the NCGM. In addition, two medical doctors from Cambodia were invited to the NCGM as speakers on neonatal care in Cambodia at a conference held on March 14, 2014.

4) Nepal

For strengthening research management capacity, the MOU for research cooperation and the related human resource development was signed between the NCGM and Institute of Medicine, Tribhuvan University (IOM) in January 2013, by which IOM became a hub in Nepal for the NCGM. After this research project was launched, a hub office was established in IOM and has been functioning since May 2013. After reviewing the existing ODA projects and discussing with the counterpart departments (Department of Research and Training, Department Internal Medicine, Department of Public Health), we started the activities for this research project.

Department of Research and Training: Based on the interviews on the impact of JICA projects and also on the current problems, we noted that the research methodology (especially epidemiological methods and diagnostic imaging methods) has not been well established yet.

Department of Publish Health: For our collaborative research “Research on equity of distribution of mosquito net for malaria control”, the statistical analyses were performed from the epidemiological view point and discussion was held to prepare the abstract for presentation at an academic congress.

Department of Internal Medicine: For the upcoming research on respiratory medicine titled “Investigation of cases of interstitial pneumonia at the Tribhuvan University Teaching Hospital (funded by IOM)”, technical support to develop research plan and guidance for interpretation of diagnostic imaging (chest X-ray, CT) was provided for the Department staff.

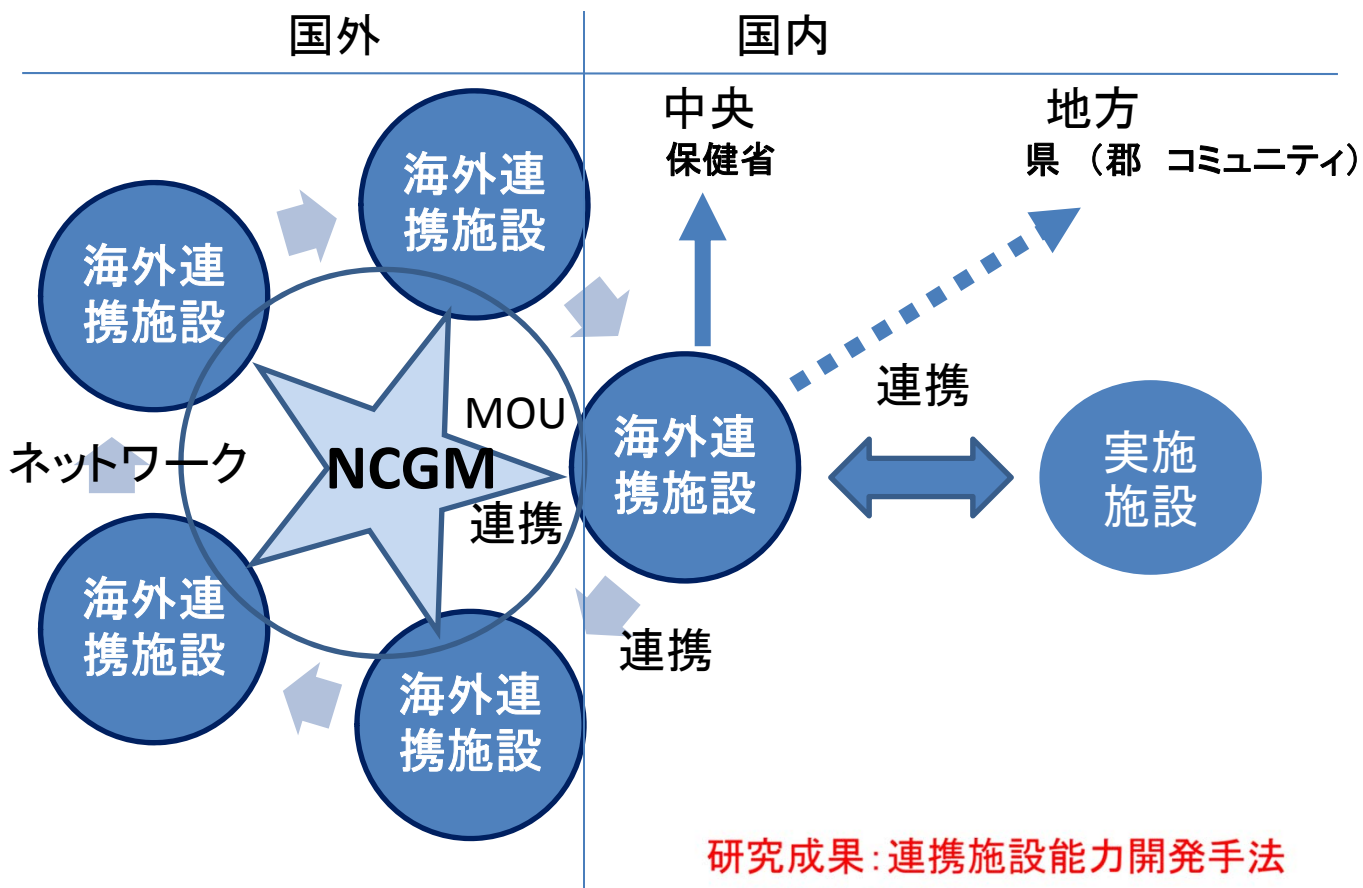
Researchers には、分担研究者を記載する。

NCGMの海外連携施設の活用 と能力強化に関する研究

主任研究者：三好知明

分担協力者：慶長直人、小原博、仲佐保

目的: NCGMの海外連携施設の活用と能力強化



研究方法:

- モデル研究
- 人材育成(研修、e-learning)
- ネットワーク(研究フォーラム)
- その他

研究成果: 連携施設能力開発手法

• 連携施設強化

- 管理能力強化
- 研究能力強化

手法開発(研修コース、教材等)

研究支援体制(フォーラム等)

研究能力評価

モデル研究成果

- 事業能力強化

• 実施体制強化

国立国際医療研究センター国際医療協力局と 外部機関(国外)との協定書(2014年3月現在)

タイトル	署名日	期限
ベトナム・バクマイ病院との医療連携に係る合意書	2010年3月15日	署名日～1年間 (自動継続)
マダガスカル・保健省との研究実施に係わる合意書	2011年9月9日	2011年4月1日～ 2014年3月31日
ラオス・パスツール研究所との共同研究協定締結に関する合意書	2011年12月31日 2014年2月5日改定	署名日～2015年 12月31日
カンボジア・国立母子保健センターとの新生児医療などの技術支援、研究、人事交流、研修の分野における協力に関する協定書	2012年12月18日	署名日～1年間 (自動継続)
ネパール・トリブバン大学との研究、人材育成、情報交換等に関する協力協定書	2013年1月18日	署名日～2015年3月 (自動継続)

課題番号 : 25指5

研究課題名 : 開発途上国のNCGM拠点施設における研究能力の開発に関する研究

主任研究者名 :

分担研究者名 : 三好 知明

キーワード : ラオス、拠点形成、研究能力強化

研究成果 :

本研究班では国立国際医療センターのラオス拠点形成としては「ラオス国家保健研究フォーラム」(NHRF)を通してラオスにおけるNCGM海外連携施設であるラオス・パスツール研究所との関わりをより深め、フォーラム活動を推進していくことにより、ラオス国全体の研究体制の強化と研究内容の向上を図る。また、サワナケート県(SVK)において、保健スタッフと研究者の連帯・共同研究をモデル的に実施し、NHRFを通じて研究の質の向上と研究体制整備に繋げていくことが計画された。

ラオス拠点形成によるラオス国全体の研究体制の強化

平成25年度は平成25年10月15-16日に第7回NHRFをラオス国が主体的に実施する体制を、オールパートナーで支援する形で開催された。具体的には研究分担者の三好が、ラオスでの保健研究日本人実施者集団であるラオス保健研究コンソーシャム(JCHR)の理事長に就任し、NCGMがリードする形で各国のパートナー形成をした。フランス、イギリス、ドイツの各保健研究パートナーが共同支援する形が初めて実現した。パスツール研究所内NCGMラボだけでなくフランス大使館を中心とし、IRDやラオス熱帯医学大学院大学等の全てのフランス関連支援機関が参画、またラオス保健科学大学を支援するイギリス・オックスフォード大学、ラオス公衆衛生研究所と共同研究を進めているドイツ・バンハードノック熱帯医学研究所との共同参画が実現し、WHO西太平洋事務局も韓国の専門家を派遣した。このようなラオス保健研究を支援する大きなドナーはほぼ全ての参画が実現した。また特記すべきことはこのようなパートナーシップを形成するなかでJCHR事務局が仲介するかたちで、保健省公衆衛生研究所とラオス保健科学大学の共同によるNHRF開催が実現した。これによってラオスの保健医療分野の研究を実質的に担っている二つの機関の協調が実現しラオス国としての研究のオーナーシップも強化されたといえる。

保健スタッフと研究者の連帯・共同研究

サワナケート県(SVK)の活動としてはラオス公衆衛生研究所とJCHRが研究フィールドとしており僻地保健医療研究の拠点としてセボン郡に、村落保健ボランティアトレーニングセンターが日本大使館の支援のもと10月に開所された。開所と同時にJCHRとアジア保健教育基金によってセンターの運営管理のサポートが開始されたが、そのなかで以下の2点が行われた。

研修マネージメント

NCGMがベトナム等で開発してきたツールを使って、ラオスで初めての研修マネージメントの導入が行われた。10月にプレのトレーニングとニーズ調査が行われ、県・郡レベルの保健スタッフにニーズが極めて高いことが確認され、これを公衆衛生研究所にフィードバックしアクションリサーチとしての介入がなされている。この一環として平成26年2月末に公衆衛生研究所でのTOT(Training of Trainer)と現地語での教材の作成がなされ、3月にセボン郡での第一回のトレーニングが実施された。今後研修マネージメントの実施状況等が質的に分析されることを計画している。

母子保健研究

公衆衛生研究所・保健科学大学及び県レベルとの討議の結果、研究ニーズとして高いが、研究の実施と成果が得られていないものとして母子保健研究があげられた。26年度はこの分野での研究計画策定と予備調査の実施を予定している。

課題番号 : (25指5)

研究課題名 : NCGMの海外連携施設の活用と研究能力強化に関する研究

分担課題 : ベトナム海外拠点における高品質な臨床疫学研究の実施と支援体制の整備に関する研究

主任研究者名 : 三好 知明

分担研究者名 : 慶長 直人

キーワード : e-learning、臨床疫学研究技能研修、モデル研究

研究成果 :

(1) 目的

ベトナムにおける拠点スタッフに対して研修を毎年実施し、臨床疫学研究の技能を段階的に修得してもらおう。これを繰り返すことにより、常勤拠点スタッフの教育技能をも向上させ、屋根瓦方式で拠点全体のレベルの向上を図る。

講師陣は、個別研究の実施に際して、コンサルテーションチームの役割を担う。また講義・演習で用いた資料をもとにインターネットを活用した e-learning システムを構築し、周辺諸国でも研修可能な教材を作成する。

ベトナムにおいて重要な疾病について、個別研究の実施妥当性の検討、カウンターパートの選択、国際間の倫理的諸問題、プロトコル作成、研究費試算、申請書作成、必要な臨時スタッフの雇用、実施モニタリング、データ入力/整理、基礎統計、論文作成まで支援できる高品質な臨床疫学研究支援体制の強化を目指す。研修を受けた人材が、実際にモデル研究を実施することで、ベトナム拠点から国際的に通用する研究成果を報告し、その質の高さを内外に知らしめる。

(2) 方法・結果

平成 25 年度はベトナム・ハノイ市バックマイ病院において 11 月 25 日から 27 日までセミナーを実施した。講師陣は研究協力者も含め 5 名が担当した。基礎統計のほか、系統的レビューや ROC 曲線など臨床研究の実施で使用頻度の多い話題を取り上げた。Propensity score analysis はアウトカムとなるイベント数が少ない場合に患者背景を調整する方法として利用されることが多い。STATA を用いたハンズオンの実習などを行った。

	午前	午後
	担当 内容	担当 内容
11月25日	ミン Systematic review 1	新保 ROC curve
11月26日	ミン Systematic review 2	萩原 Longitudinal data analysis
11月27日	田中 Introductory statistics	高橋 Propensity score analysis

また e-learning システムを作成した。従来のセミナーの内容を要約・整理したものを素材とし、一部の話題では解説を付記した。またクイズなども加えある程度の自己評価を可能とした。この e-learning システムを講師陣の中で配布し、コンテンツの確認などをおこなった。また id/password を現地の関係者用に 10 名配布した。しかし、中心的役割を果たす新保卓郎先生が退職されたため、e-learning システムのさらなる改訂は次年度困難が予想される。

モデル研究として、「ベトナムにおける副鼻腔気管支症候群の研究」を実施した。これは途上国における慢性上下気道感染症の実態を知ることを一つの目的としている。バックマイ病院の耳鼻咽喉科、呼吸器科との連携が必要であり、高度な研究の統率力が要求されたが、ベトナム拠点のスタッフは 22 指 1 研究から引き続き、上記研修と on the job training を通じて、これまで臨床疫学研究の技能を向上させてきたため、主体的に現地モニタリングと研究全体の統括制御を行い、計 201 名の喀痰、咳嗽を伴う慢性副鼻腔炎患者の下気道感染に関する詳細な臨床疫学情報を収集することに成功した。その解析結果は平成 26 年度以降報告できる予定である。

課題番号 : 25指5

研究課題名 : ネパール拠点を活用した人材育成能力強化に関する研究
- ODA プロジェクトの成果拡大を視野に入れて

主任研究者名 : 三好知明

分担研究者名 : 小原 博

キーワード : ネパール、海外拠点、ODA プロジェクト、人材育成、管理能力

研究成果

本分担研究は、ネパール国トリブバン大学医学部(以下、IOM)に設置された NCGM 海外拠点(以下、ネパール拠点)を活用して IOM の人材育成能力強化を図ることを目的としている。IOM ではかつて政府開発援助(以下、ODA)による無償資金協力及び技術協力プロジェクトが実施され、現在はネパール国の医療の中核として指導的役割を果たしている。人材育成を通じて医療の恩恵を波及させ、ネパールの医療水準向上に寄与することを視野に入れて研究を実施している。とくに海外拠点の管理能力強化と主要専門分野(内科、公衆衛生学)の人材育成に焦点を当て、経過をモニタリングし評価を実施することを企図して研究を実施している。

1) 拠点管理能力強化:

2013年1月に研究協力とそれに関連した人材育成に関する協定が締結され、IOMがNCGMのネパール拠点として発足した。本研究班発足後、IOM内に拠点オフィスが設置され、必須機材を揃え活動の基盤を構築した。ネパール拠点では現在、本研究班(25指5)に基づく活動のほか、NCGMの研究費(24指5、25指7等)を活用した活動が進行している。

2) ODAによる協力の概要と現況に関する調査:

1980-1996年にIOMを対象に実施されたJICAプロジェクト「医学教育プロジェクト」の概略と現況を整理し記述した。さらに、病院及び基礎医学分野の活動実績に関しプロジェクト終了時点と現在の状況を比較した。これらを年報に記載した。

3) 人材育成強化:

-研究研修部:

JICAプロジェクトのインパクト、現在の問題点について概略を聴取した。最近IOMに研究研修部が設立され、これらの研究や研修が一層重要視されつつある。しかし、疫学的研究手法や研修プログラム管理能力が低いことが示唆された。

-公衆衛生学:

同教室と共同で実施した研究「マラリア対策における蚊帳配分のEquityに関する研究」について、同教室スタッフとともに解析から学会発表、報告書作成まで一連の作業を実施した。

-内科:

呼吸器内科で開始した研究「トリブバン大学医学部教育病院における間質性肺炎症例の検討(IOMの予算による)」について研究計画作成の補助や画像診断(胸部X線、CT)読影の指導等を実施した。

3) 年報作成:

ネパール拠点の年報(Annual Report 2013, IOM-NCGM Research Collaboration Office)を刊行した。

http://www.ncgm.go.jp/kyokuhp/library/other_doc/index.html

課題番号 : 25指定5

研究課題名 : 海外連携施設における効果的な事業のありかたに関する研究

主任研究者名 : 三好知明

分担研究者名 : 仲佐保

キーワード : 海外連携、ミャンマー、カンボジア、研究協定

研究成果

本研究は、カンボジアにおける人材研修及びモデル事業の実施により、海外連携施設による効果的な合同事業のあり方に関する提言を行うとともに、ミャンマーらの国との合同事業に関する協定を結び、それらの成果を評価し、合同事業の在り方に関して提言するものである。

1) カンボジア

合同事業協定を締結したカンボジアの国立母子保健センターに関しては、新生児に関連した人材育成事業として、NCGMからは、国際医療協力局のレジデント医、小児科のレジデント医を継続的に派遣し、呼吸器管理、新生児マニュアルの作成、合同カンファレンスなどの活動を実施した。また、カンボジア側からは、3月14日に2名の医師をNCGMに招き、カンボジアの新生児医療に関してカンファレンスを東京にて開催、発表を行った。別途、3月4日には、カンボジア国立母子保健センターにおいて、合同事業に関する年次報告会を実施し、これを評価した。また、拠点事業として、実施するために、JICAの技術協力プロジェクトと同じ事務所を使用しているが、NCGMが署名した海外拠点における活動を実施するためには、NCGM関連の事務手続き等のために現地スタッフを雇用すること等により、環境を整えることによって、効率的に事業が運ばれることが明らかになった。

2) ミャンマー

年2回の研究に関する合同研究会（プロトコールミーティング）を実施した。内容としては、保健省行政官による4つの研究（母子保健2、非感染性疾患調査1、病院の質（TQM）の意識調査）の研究プロトコール評価を行った。また、ミャンマー保健省保健局内に倫理委員会も設置され、積極的に研究を実施できる環境が整った。また、ミャンマー側からも、研究協定の署名に関する要請もあり、NCGM（国立国際医療研究センター）とDOH（ミャンマー国保健省保健局）間で、保健医療に有益な共同研究プログラム、人事交流、研修を主活動とする共同研究協定（Agreement of Research Cooperation）締結を4月に締結することが内定した。

研究発表及び特許取得報告について

課題番号： 25指5

研究課題名： NCGMの海外連携施設の活用と研究能力強化に関する研究

主任研究者名： 三好知明

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
該当なし				

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
Socio-medical Inequities in Bed-net Use in two different Malaria endemicity of Nepal.	Sherchand JB, Ohara H.	54th General Assembly of the Japanese Society of Tropical Medicine.	Nagasaki	2013年10月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
ネパール拠点の年報(Annual Report 2013, IOM-NCGM Research Collaboration Office)	小原博	http://www.ncgm.go.jp/kyokuhp/library/other_doc/index.html		2013年

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。

※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと